

織田政権の北方の要
加治田城・津保城を考える

中濃の要衝であった加治田城が織田方に内応したことをきっかけとして、永禄8年（1565）に織田信長による東美濃攻略戦が始まりました。最大の激戦地は富加町夕田にある堂洞城でした。これに勝利した信長は、2年後に岐阜入城を果たし美濃を手中におさめます。加治田城はその後には、斎藤道三末子で当時は信長の馬廻衆だった斎藤新五の居城となり津保城（関市）なども拠点としながら、北方の上杉氏との交渉や浅井・朝倉氏や武田氏に対する織田政権の北方の要の役割を果たしました。これらの城と地域史の重要性について関高校地域研究部・富加町・関市で積み重ねてきた調査研究をご紹介します。

- 日時 令和6年11月2日(土)
13時30分～15時（開場13時10分）
- 会場 岐阜関ヶ原古戦場記念館
3階セミナールーム
- 参加費／無料（別途、入館料が必要です）
- 定員／100名（先着順）
- 申込締切／10月27日(日)
※定員に達し次第、募集を締め切ります
※往復はがきでお申込の場合は10月25日（金）必着
- 申込方法／記念館HP又は往復はがき
※詳細は記念館HPをご覧ください。
(<https://sekigahara.pref.gifu.lg.jp/news/p6309/>)

第48回全国高等学校総合文化祭
郷土研究部門 最優秀賞受賞

講師紹介

○岐阜県立関高等学校地域研究部

自治体と連携しての調査研究という先進的活動を実施。加治田城・津保城の研究は令和6年度の日本考古学協会高校生ポスターセッションにて優秀賞を獲得

○島田崇正(富加町教育委員会 文化財専門官)

富加町が中心になって制作した歴史マンガ『夕雲の城』『斎藤新五利治』の監修や資料集の作成を担当

○森島一貴(関市文化財保護センター 学芸員)

関市内の文化財保護や発掘調査に携わる学芸業務の傍ら、関市の城郭や関町の成立についても研究



記念館公式HP



「加治田城と城下町」 復元イラスト：香川元太郎